

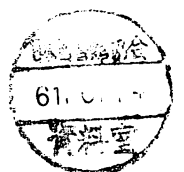
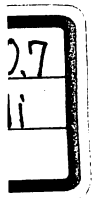
東アジアの図書館員養成

日本図書館協会図書館学教育部会

日本図書館協会
図書館学教育部会 会報特集号

日本図書館協会図書館学教育部会

昭和61年3月



東アジアの図書館員養成

日本図書館協会教育部会では、過去数年間「図書館学教育におけるカリキュラムの構築」を主要研究テーマとしてきている。昭和60年度全国図書館大会に於いても、同テーマに関連し、アジア近隣諸国の図書館員養成の実情を、滞日、研究中の陳 洪国、朴 正吉、金 容媛、林 孟真諸氏の発表を通して、初めて知ることができた。

ここに4氏の発表をそのまま記録すると共に、同大会に参加することのできなかった部会員の研究の一助となることを願って教育部会会報特集号として、刊行することにした。

なお、ご多忙のところ、協力をご快諾下さった4氏に対し、深く感謝申しあげたい。

目 次

I. 中国における図書館学教育の問題点	陳 洪 国	1
II. 韓国の図書館学教育に関する小考	朴 正 吉 金 容 媛	11
III. 中華民国（台湾）におけるプロのライブラリアンの養成	林 孟 真	21

I. 中国における図書館学教育の問題点

陳 洪 国

(中国科学院長春物理研究所)

1 はじめに

ご紹介頂いた陳洪国でございます。今回の日本図書館協会全国大会に参加出来、数多くの図書館学の先輩方に教えを頂く機会を得まして、誠に光栄に思います。

本日の演題は、『中国における図書館学教育の問題点』になっていますが、まず中国の図書館と図書館学教育の現状、次に図書館学教育に直面する問題点及び私見を述べてみたいと思います。

1.1 中国の図書館の概況

皆様方、ご存じのように、中国の図書館は、大きく分けて、中国文化部に属する公共図書館、教育委員会に属する大学図書館、科学院係に属する専門図書館に分類されています。更に、この3つの系統のほかに中華全国総工会（労働組合）系の図書館、人民解放軍の図書館各工場内に設置された専門図書館、政府機関の図書館もあります（表1参照）。

1983年の統計によると（表2参照）文化部系統の市、県立以上の図書館の数は、2,200ですが、その内、国家図書館（北京図書館）は1館で、省立図書館は30、県立図書館は1,600、児童図書館は50館あります。これらの図書館は、全て『省、市、自治区図書館工作条例』にしたがって国内、外の総合的な図書、文献、資料を収集し、情報検索、貸し出し等の業務交流を展開するとともに人民大衆に社会主義思想教育、文化水準向上、その他の方面でサービスを行います。

教育委員会系の大学図書館は、1983年現在、745個所に設立されています。『中華人民共和国高等学校図書館工作条例』によって、大学図書館は世界最高の学術水準の図書、資料を収集し、教員と学生、あるいは教育と研究に奉仕する事を任務としています。大学図書館の他に、高校、中等専門学校、小・中学校の図書館もあります。

科学院系統の専門図書館には、中国科学院及び各分院、研究所の図書館があり、1983年の統計では、全部で148個所となっています。その他に中国農業科学院、林業科学院、鉄道科学院、地質科学院、医学科学院等の専門図書館もあります。これらの図書館の任務は、科学研究や科学発展の促進に役立つ文献資料の収集と研究者にサービスする事です。『中国科学院図書、情報工作臨時条例』は、その関係法令となっています。1979年に、山西省太原市で、中国図書館学会の成立大会が開催され、1983年10月に『図書館学会章程』の改訂が

表1 中国の図書館の分類

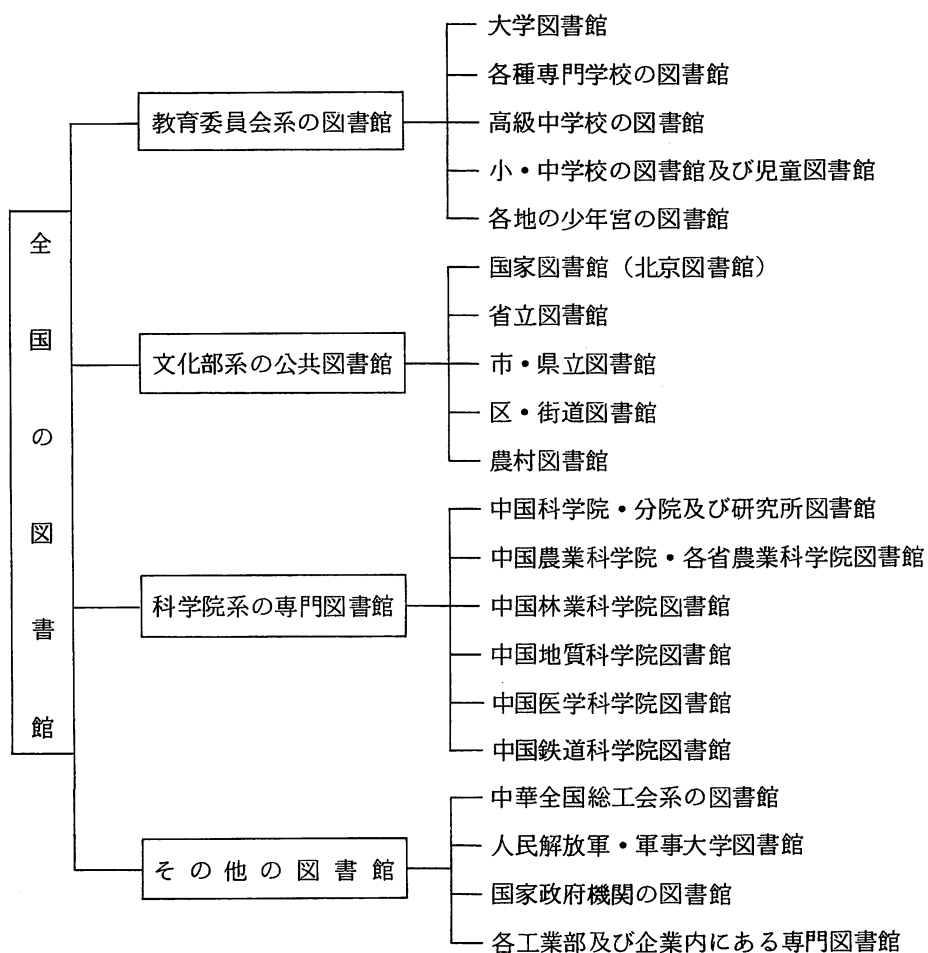


表2 中国における図書館発展の推移（蔵書：万冊）

	1948年		1983年			
	館 数	蔵 書	館 数	増加率	蔵 書	増加率
国家図書館	1	140	1	一倍	1,170	8.4
県立以上の図書館	55	—	2,200	40.0	25,000	—
大学図書館	132	794	745	5.6	23,400	29.5
中国科学院図書館	17	63	148	8.7	2,200	34.9
農林・地質・医学科学院図書館	2	18.1	5	2.5	101	5.6
工会図書館	44	—	146,000	3318.2	22,000	—

行われました。この学会は、学術的な民間団体として国家の方針、政策を実現、推進する任務を持っています。中国の図書館の経費は全て国家の予算にはいっています。

1.2 中国の学校教育制度

中国の学校教育制度は、日本と大体同じように、小学校6年制、中学校3年制（義務教育）高校3年制、大学4年制（一部分は5年制もある）で、中学校を卒業して、入学試験に合格すれば、高校に入学できます。高校生は全国高等学校（大学）統一試験を受けて及第してから希望の大学に入れるのですが、入れない高校卒業生は、夜間大学、テレビ放送大学等の短期大学に入学し、あるいは予備学校に入って復習したりします。図書館員の養成コースは、3年制の中等図書館学専門学校もありますし、3年制と4年制の大学もあります（表3参照）

表3 図書館学教育開設学校

	学 校 名 称
四年制大学	北京大学、武漢図書館情報学院、北京師範大学、北京大学分校、南開大学分校、山西大学、東北師範大学、大連工学院、華東師範大学、復旦大学分校、福建師大学、湖南大学、中山大学、黒竜江大学、江西大学、安徽大学、杭州大学、河北大学、四川大学、中国人民大学、中国科学技術大学、吉林工業大学、
三年制大学	山東大学、上海師範学院、内蒙古大学、西北電信工程学院等十何校
通信教育班	北京大学、武漢図書館情報学院、東北師範大学、華東師範大学等の数多くの大学は、北京、上海、武漢、長春等の都会で図書館学通信教育受講クラスを設置している。
放送大学	中央テレビ放送大学図書館学専門学科（1985年より、全国から学生を募集し、5万人が受講している。）
中等専門学校	学制は、2～3年で、中学校の卒業生を募集する。（学校数は未知である。）

2 図書館学教育の現状

中国の図書館学教育は三つの部分からなっています。すなわち、A. 正式学校教育、B. 業余学校教育、C. 短期訓練クラスです。

2.1 図書館学教育機関

1976年以前は、北京大学、武漢大学等の数少ない大学のみで図書館学を専門とする学生

養成を行いました。現在では北京大学、武漢図書館情報学院等30校以上の大学で、4年制又は3年制課程を設置し、年間約2,000人の学生を養成しています。現在、図書館学部 of 学生を募集すると同時に、各専門大学の卒業生から2～3人を選んで図書館学専門科で1～2年間専門的にある課程を勉強してから図書館学部に入学させています。

2.2 図書館学教育者

全国30余りの図書館学教育機関の中で、図書館学、情報学の教育にあたる教員は、僅か400余人程度です。内訳は、専任教員280人、兼任教員が約120人です。現在、図書館学の教員不足の問題を解決する対策として、図書館情報学活動に従事し、経験を積んだ図書館員に兼任教員を担当してもらう他に図書館学部の卒業生及び修士研究生から選び、外国へ留学、研修させて図書館学の教員になる方法がとられています。北京大学、武漢図書館情報学院、上海師範大学等数多くの学校は、今、アメリカ、イギリス、オーストラリア、日本に百数名の留学生を派遣している状況です。

2.3 教育課程

現在、図書館学教育の学校では、一般教養課程と専門課程を置いています。その詳しい内容は、表4の通りです。現在使っている教科書の内容は、古臭いので、外国の先進的な研究

表4 武漢図書館情報学院の課程設置

専門科	専門課程の内容
図書館学	図書館学基礎、蔵書と読者、図書分類学、文献編目、目録学、中国語参考書、外国語図書編目、科学技術文献学、図書館自動化、情報検索言語、科学技術文献検索、社会科学文献目録学、版本学、視聴覚資料の管理と利用、文献の複製技術、図書の修理等
図書発行业	図書発行概論、図書発行业史、図書販売学、発行企業管理、図書発行情報分析、流通自動化、図書学、会計学原理、経済管理等
檔案学	中国政治制度史、科学技術檔案(文書)管理学、科学檔案学基礎、檔案管理技術、檔案事業史、檔案編纂学、檔案保護技術、檔案管理自動化等
情報学	情報学概論、科学技術文献管理、科学技術文献検索、科学技術情報の分析と研究、プログラミング言語、データベース・システムの原理、コントロール・システム、情報検索システム、科学技術文献学、データ構成、情報検索言語、翻訳出版等

結果を吸収し、教材の内容を更新させているところです。北京大学等多くの学校で、図書館管理学、図書館学の方法論、情報源、計算機情報検索論、図書館の現代技術の課程が増設されました。統計によりますと、1978年から1983年の間に各学校で百種類の専門教材が編纂され、一部分は、もう出版・発行されています。教材編纂をより一層強化させるために、教育委員会の指導の下に、1981年に『図書館学専門教材編纂審査グループ』が設置され、教材の出版に関する組織、審査、推薦の役割を演じています。

2.4 図書館職員の資格

1981年1月、国務院が決定した『図書、檔案、資料專業幹部業務職稱臨時規定』によって、現在研究館員（教授）、副研究館員（助教授）、館員（講師）、助理館員、管理員の五段階の職員の資格が決められました。大学を卒業してからまず助理館員の資格を取りますが、日常業務を通じて、自己研修あるいは館外研修を行い、昇格試験に合格すれば図書館員になれます。

「図書、檔案、資料專業幹部業務職稱臨時規定」

研究館員……………	教授相当	助理館員……………	助手相当
副研究館員……………	助教授相当	管理員（無資格者）	
館員……………	講師相当		

3 図書館現職者の再教育

3.1 再教育の方式

前に申しあげたように、中国の図書館教育には、主要な養成機関は、正式な図書館学教育学校の他に、テレビ放送大学、通信教育受講クラス、図書館学研修学校、短期訓練班等様々な在職研修方式もあります。在職研修は、大体自己研修、職場研修、職場外研修の三つに区分されます。研修を通じて常に新しい知識と技術、あるいは資格を習得することになっています。

3.2 新知識、新技術の習得

中国の図書館員に新知識、新技術を習得させ、ユーザーに対してサービスの迅速化、効率化を促すべきであります。何故かと言いますと、現在、情報化社会が急速に進んでいるために、新しい知識も豊富になってくるからです。御存知のように、アメリカ、イギリス、日本等数多くの国では、もう検索性磁気テープを使ってオンラインを展開していますし、端末機

を電話回線と結んで人間—マシン対話を行うようにもなっています。そして、各分野の文献データベースは、日増しに増えて来ています。したがって、伝統的な図書館と図書館員はもう単なる書庫とその番人ではなく、各図書館の役割に基づいてユーザーに最新の情報を提供しなければなりません。早急に現職者に最新の情報管理知識を備えさせるために、今の中国は、各地でテレビ放送大学の図書館学専門学科、通信教育受講クラス、図書館学研修学校を設立し、図書館の職員に計算機科学、情報科学、情報検索論、文献学、図書館現代化技術等の新知識を習得させています。統計によりますと、中国科学院は1981年から1984年12月まで図書館学の初任者研修、中堅職員研修、監督者研修等の11期の短期研修クラスを行いました。さらに、1984年から3年制の「図書館情報学専門学科」を置き、各研究所の図書館職員を募集し系統的な研修を行っているようであります。

公共図書館の現職教育に関しては、職員の執務能力を向上させるために、江蘇省図書館学会は、図書館現職者訓練班を設けた他に、南豆師範大学と協力して図書館夜間大学を創立し、1981年～1984年の間に四期の訓練班と三期専門科の図書館員を募集し（訓練班：360人、専門科：450人）専門訓練が行われたそうであります。

いうまでもなく、大学の図書館職員の現職教育も活発に行われております。長春にあるベチューン医科大学と沈陽市にある中国医科大学には、医学図書館専門クラスを設置して医学と図書館学の知識を兼有する人材を養成しています。そのクラスの授業は表5のようになります。

表5 ベチューン医科大学医学図書館クラスの授業

教育内容	授業時間
医学関係	600時間
図書館学関係	500時間
外国語	700時間

以上の在職者の再教育の方式は短時間で効果が著しく、また、仕事と直結させることできるので広く採用されるようになってきました。統計によれば、現在在校の研修人数は5,000人とされています。

外国の先進的な経験を吸収して、質の高い図書館人材を養成し、中国の図書館事業の近代化を実現させるために、今、外国へ国内の図書館員を留学あるいは研修させ、図書館学の再教育を行うことも実施しております。

3.3 無資格者の資格習得

現在、図書館専門学校の出身の図書館員は不足していますので、図書館に勤めている職員の半数は無資格の若いものが採用されています。彼らの業務水準をアップさせ、資格を習得させるのも大切なことであります。各大学、中国科学院図書館、各図書館学会が創設した図書館学通信教育受講クラス、図書館学訓練クラス、テレビ放送大学図書館学科等の一つの目的は、当該職務の任にたえられるような図書館員を養成するためであります。受講の結果、試験に合格すれば上級職への昇格が可能になります。

4 図書館学校の卒業生就職の現状

4.1 就職率

『四つの現代化』の需要に応じて中国の図書館事業も急速に発展しつつあります。表2の統計で、現在中国に於ける各種類の図書館は総数15万に達しました。現在、全中国の図書館情報関係の職員は約20万人だそうです。しかし、1949年から1983年までの35年間に養成した図書館員は僅か4,000人しかいません。したがって、不足している現状なので図書館学校の卒業生の就職率は100%だと言ってもいいでしょう。北京大学の調査で、1985年度の本科卒業生は50人（その内10人が大学院に進学）しかいません。しかし、求人の部門が千以上に達したそうです。私共の図書館情報センターには、職員は30数名ありますが、図書館学の出身者は一人もいません。そのため、5年前から数名の図書館学校の卒業生を希望していますが、現在まで一人も入所していないと言う状況であります。図書館学の専門人材は、「需要に応じきれない」わけですから就職についての問題はないと言ってもいいでしょう。

北京大学と武漢図書館情報学院の例年の就職状況からみれば、卒業生の進路は、大学の教員、大学図書館、大都会の公共図書館、科学研究機関及び国家政府機関の図書館情報センターの職員になるということが通例になっております。

北京地区28の研究機関の専門図書館の職員を対象に調査した結果によりますと、対象者604人の学歴程度及び専攻分野は次の通りになっています。

表6 職員の学歴（604人）

大学以上	中等専門学校	中学校
283人 47%	184人 30%	137人 23%

表7 職員の専攻分野（604人）

図書館学	理工学系	外国語系
27人 4.4%	166人 27.4%	90人 14.8%

4.2 給 与 制 度

中国で大学を卒業した図書館職員は、国家公務員に成りますので給与は行政職員俸給規定によります。初任給は、同期卒業した他の公務員、例えば中学校、大学の教員、政府の公務員と同じで、六十元ぐらいであります。目下中国では、給与制度改革を行っています。

5 図書館学教育の問題点と私見

5.1 まず初めに教育内容の改革に努めるべきであります。

急速な情報社会の進歩の中で、図書館は受動的なサービス方式から能動的な方式へ、手作業から近代化、オートマチック・コントロールへと、小規模生産管理方式から科学的管理方式へと転換する時代を迎えております。「情報時代」の図書館活動、実践に応える図書館員を養成するために、たえず国内外の最新の研究成果を吸収し、古臭い教育内容を更新させなければなりません。伝統的な教育内容の簡素化を図ると同時に図書館管理学、情報学、情報分析とサービス、図書情報検索ネットワーク、コンピュータによる情報検索システム論、ニューメディア論、プログラミング、図書館現代技術等の授業を充実、増設すべきだと思います。北京大学では既に新しい教育計画を立て、授業内容の更新に努めているそうです。

5.2 次に専門的知識や修練を身につけた図書館員を早急に養成する事が、当面の急務であります。

現在、エレクトロニクス技術、コンピュータ、数学等の学問及び科学的管理技術は、既に図書館情報分野に広く応用されてきているので図書館学の属性や図書館員の需要も変わりつつあります。そのために、理工科、文科の生徒を募集すると同時に課程の設置、授業の計画と方法に置いてプロフェッションとしての図書館員の養成を目ざすべきであります。以前の専門的知識が無視された形で行われていた単なる養成教育は、もう図書館情報の現代化の需要を満たすことができません。

5.3 第3に図書館学教育者の質的向上が必要であります。

現在、図書館学の専任教員と兼任教員は豊富な教育経験を持っています。しかし、新しい内容を充実させ、知識の涵養に努めなければ、立派な人材を養成出来ないと思います。現代では、社会の急速な発展に伴って情報の量的増加、質的变化、利用者と情報資料を結ぶ技術の進歩等の現象が起っており、図書館学教育の形態や内容も変貌しつつあります。図書館学教育者はこれらの変化に対応して、図書館学の知識、語学の知識の他に常に新しい専門知識と技術を習得しなければ適切な教育者とは言えないでしょう。最近、北京大学や武漢図書

館情報学院では、優秀な教育者の養成に工夫をしています。

5.4 第4には図書館職員の社会的地位です。

今、政府は、図書館情報活動や図書館職員のポストに関して以前より関心を示していますが、図書館職員が社会でまだ高く評価されていないのが中国の現状であります。「図書館は本の倉庫だと考えて、そこに番人がいればいい」と思う素人の指導者は少なくありません。従って、数多くの図書館では、よく年配者や虚弱者を図書館に割り当てるのも事実であります。彼らにとって、図書館はあっても、なくてもかまわないものと言っても過言ではありません。以上の偏見を打破しないかぎり、図書館学の教育、図書館事業の繁栄はありえないと私は思います。

5.5 最後に図書館利用者の教育を強化すべきであります。

図書館として、より積極的に文献情報サービスを提供するために、利用者に対しての教育指導をして働きかけることも大事な事だと思います。いま、中国の公共図書館や大学図書館での利用者に対して二次資料の使い方、目録カードの使い方、参考図書類の使い方を指導すること、文献検索指導、特に計算機情報検索システムの使い方等、レファレンス・サービスのような利用者指導は、日本の図書館に比べて、まだ不充分だと言わなければなりません。今後、より積極的に利用者に働きかけ、啓蒙するのも図書館学教育の重要な内容の一つになるでしょう。

6 むすび

以上、中国における図書館学教育の問題点をめぐってお話し致しましたが、いずれにせよ、今の図書館学教育の体制、教育内容、教育方法及び課程設置に対して、改革を行わなければなりません。特に、各部門の指導者は、図書館学教育と図書館事業の発展に気を配るよう希望しております。

今回の発表に関しては、お世話頂いた全国図書館大会運営委員会関連委員長、国会図書館国際交換課の後藤先生並びに図書館情報大学の黒岩先生、杉村先生に深く感謝しなければなりません。また、御協力頂いた徐引虎、紀昭民、上官林莉三氏にも合せて深く感謝致します。

本日は、本当にありがとうございました。

資料1 武漢図書館情報学院

武漢図書館情報学院の前身は武漢大学の図書館学部である。1956年に武漢大学は元武昌文華図書館専門学校を吸収し、図書館学部となり、1978年に図書館学科と科学技術情報学科の2学科に発展した。さらに中国の図書館事業の発展に応じて、1984年に図書館員と科学技術情報人材を養成する独立した大学になり、図書館学部と情報科学学部の2つの学部、図書館学、図書発行学、檔案学及び情報学等4つの学科が設置されている。

学生数は、大学院及び研修生を含めて、現在、860人いる（うち約50人の研修生は図書館員）。このほか、通信教育をうけている図書館員が、年間、600～700人いる。教職員は120人で、その内教授2人、助教授11人である。一部分の教員はアメリカ、イギリス、日本等の国外に留学、研修中である。

この大学では、4年制と大学院の課程を置いている。4年制の卒業に必要な単位は、136単位、1単位の授業時間数は、16時間である。教育の課程は、低学年で、一般教養として、古代漢文、政治経済学、数学、物理学、化学、外国語を習得させ、専門科目は、表4(p.4)の通りである。

武漢図書館情報学院が養成した図書館員は中国の図書館事業の中堅幹部として全国の省級以上の大図書館と国家の各機関で活躍している。

資料2 北京大学図書館学部

1952年に北京大学で3年制の図書館学専科が設置され、1956年から4年制の図書館学部に変り、武漢大学と同じようになり、図書館員を養成する重要な教育機関となった。現在、図書館学科と科学情報学科（理工科系）が設置されている。

学部の教員は50人で、内訳は教授2人、助教授10人、講師16人である。在学学生数は260人で（年間60～65人募集）、文科系と理工科系とに分けて募集している。学部の卒業生の中から、毎年約10人の研究生（大学院修士）を募集している。現職の図書館員の研究生を含めると、現在、約60人の研究生がいる。

この大学の課程は武漢図書館情報学院と大体同じである。卒業生は国家の需要と個人の希望によって分配されているが、ほとんど政府機関、新聞社、研究機関、大学及び省級以上の大図書館に勤めている。

資料3 吉林工業大学情報工学部

科学技術の発展に応じて、1982年に吉林工業大学において情報工学専門学科が増設された。学部の状況は次の通りである。

情 報 工 学 学 部 の 現 状

	教 員	本 科 生	修士研究生	研 究 生 補	通信教育受講者
1982		2 5 (人)		3 4 (人)	
1983					
1984		6 2			4 0
1985	6 2 ☆	8 0	4		1 1 0

☆ 助教授3，講師9

この学部の目的は機械工学の基本的理論を身につけ、先進的な技術と方法を生かして科学技術の情報の収集、処理、伝送、分析及び研究を行うことができる情報技術者を養成することである。卒業後は、科学技術情報研究センター、政府機関、貿易会社、大学などで情報活動に従事している。

Ⅱ. 韓国の図書館学教育に関する小考

朴 正 吉 (釜山産業大学副教授)

金 容 媛 (慶応義塾大学大学院)

1 序 論

「教育は国家百年の大計」といわれるように、教育の重要性と必要性に対して、否定的、懐疑論的主張はないが、その有効性及び価値論的、合目的性に関しては、評価と批判を加えながら修正と改善が要求されます。

それは歴史的事実と科学的究明により、絶対論的な真理と不変の価値は存在し難いという事実と、類似性を持っていると思われます。図書館学教育も例外ではなく、その時代状況と社会的環境により変化・消滅・改革を繰り返しながら、発展してきました。図書館学教育は、図

書館をより効果的で価値ある社会機関として成長・発展させるため、有能な図書館員を育成するための教育活動であります。

ここで、わが国、韓国の図書館教育を紹介する前に、わが国の図書館発達の歴史を概観してみたいと思います。

2 韓国の図書館略史

韓国は古い歴史と伝統をもつ国家として、図書館の歴史も古く、三国時代（新羅・高句麗・百済）の太学（西暦372年）と国学（西暦682年）、また高麗時代の秘書閣（西暦1058年）と修書院（西暦990年）が、多数の典籍を収集・保管した一種の図書館の形態をとり、特殊な教育機関の役割も担っていた記録が残っています。

李朝時代の代表的な機関としては、集賢殿（世宗大王が西暦1420年に設置し、同王はさらに24字からなる韓国独特の文字「^{チンブヒョンチヨン}한글」を創製）と奎章閣（1776年創設され、現在、国立ソウル大学校中央図書館に141,000巻の稀覯本、写本などが保管）があります。

近代図書館の機運は、1906年初頭に私立図書館として設立された大同書観が公共図書館の始まりであると言えるでしょう。続いて、当時の日本人により幾つかの文庫が設置され、同じく1906年には韓国図書館、1919年には京城図書館、1920年鉄道図書館が設立されました。1923年、当時の中央図書館であった朝鮮総督府図書館が設立され、その他多数の図書館が次々と設立され、1945年には全国の図書館数は46館を数えるに至りました。

1945年8月の終戦後、朝鮮総督府図書館を国立中央図書館と改名し、朝鮮図書館協会準備委員会を結成して、1947年4月には創立総会を開催しましたが、これに先だつ1946年には、朝鮮図書館学校が設立され、現職司書に対する図書館教育が始められました。

このような韓国的な図書館体制を確立、図書館事業が草創期を脱皮して本格化されつつあった1950年6月25日の朝鮮戦争で、図書館も戦禍を蒙り荒廃しましたが、休戦後、図書館は、また復興再建され、1955年には、韓国図書館協会が再び結成され、図書館司書養成教育もたゆみなく続けられました。

1963年10月28日、韓国図書館法の公布、1965年には同施行令、1966年同施行令規則が公布され、法的裏付けと支援を得たわが国の図書館界は不完全ながら、発展の基盤を作ることになりました。

韓国の図書館発展経過を統計的に示すと表1のようになります。図書館数は現在1970年に比べて2倍以上増加されていることが分ります。しかし図書館法は22年が経過した今でも改定補完されない状態で、たまたに図書館振興政策が発表されますが、まだ実践は不振微弱な実情です。

しかし韓国の図書館発展の不振と不足の現状を、ある程度カバーできるわが国独特の「아를

表1 韓国の図書館発展経過：各年度別図書館数（出典：韓国図書館統計1984）

館種 年度	国立図書館	国会図書館	公共図書館	大学図書館	学校図書館	特殊図書館	総 数
1970	1	1	58	129	2,260	134	2,583
1975	1	1	108	136	3,954	146	4,346
1979	1	1	118	177	4,416	165	4,878
1981	1	1	120	222	4,484	191	5,019
1984	1	1	142	252	5,374	229	5,999

（マウル）文庫」という文庫活動があります。現在マウル文庫は全国約36,000の町・村中、34,000個所にあって、町・村民の共同協力で、運営されています。まだ面（郡より小さい）単位の公共図書館がほとんど無いわが国では、このマウル文庫を活発に育成・発展していけば、公共図書館の発展に大きな役割を果たすことが期待されます。

3 韓国の図書館学教育の発展と経過

韓国において、近代的意味の図書館学教育が始められたのは、第2次世界大戦以後、学校教育が緊急当面の課題として浮上し、図書館の設置と図書館員の養成が必要となり、先に申しましたように、1946年、当時の国立中央図書館に国立朝鮮図書館学校が設立され、ここで最初の図書館学教育が実施されました。

表2 国立朝鮮図書館学校の最初の教科目・授業時間（1946年4月1日）

科 目	時 間	科 目	時 間
図書館管理法	2	社会教育概論	2
図書館史	1	国 史	2
図書分類法	2	外 国 史	1
東書編目法	3	国語・国語史	2
東書編目実習	2	国文・国文史	2
西書編目法	1	漢 文 学	2
西書編目実習	2	文学概論	2
書 誌 学	2	外国語(英・独・仏)	4
印刷と製本法	2	毎週授業総時間数	34

この学校は、1950年まで5回の卒業生を輩出し、1950年朝鮮戦争で閉校されました。休戦後、廃墟と化した図書館の再建と沈滞状態の図書館界を復興させるための図書館員養成問題は、緊急な社会的要請でした。大学で正規の課程ではないが、選択科目として図書館学の講義を始めたのは、1955年、梨花女子大学校が最初でした。

1957年ICAの取りはからいで米国のGeorge Peabody Collegeの教授団が来韓し、はじめて正規大学課程として、学部及び大学院課程を延世大学校に設立し、附設機関として、韓国図書館学堂（1970年まで存続）を設け、高級司書課程（1年）と司書教師課程を並行させて図書館員養成に努力しました。

初期の延世大学校図書館学科の教育課程及び授業時間、単位数は表3のようになります。

また初期の延世大学校大学院図書館学科の教育課程は表4のようで、大学院では、30単位以上の専攻科目を履修し論文を提出するようになっています。

表4 延世大学校初期大学院図書館学科教科課程

韓国書誌学の諸問題	韓国書誌学
コロン分類法	大学図書館行政
図書館哲学	公共図書館行政
分類・編目セミナー	図書館学の特殊問題
論文作成法	明清の叢書
韓籍書誌セミナー	特殊図書館の業務
韓国図書館管理の特殊問題	ドキュメンテーション

このように韓国の図書館学教育は、米国の図書館学教育内容と方法を踏襲しながら発展してきました。1959年には、梨花女子大学校、1963年中央大学校、1964年成均館大学校に図書館学科が新設されました。4大学の総べてがソウルにあり、地方には1970年代に入り、設立されるようになりました。国立大学としては、1974年慶北大学校に最初に設立され、1985年現在、4年制学部図書館学科が29校、大学院課程が6校、その内、博士課程が3校にあり、図書館学の研究の発展に大きく貢献しています。

2年制専門大学準司書課程は、1970年崇義女子実業専門大学に設置され、現在、6大学に開設され、年間約600名の準司書（司書補）が養成され、今日では毎年約900名の正司書と600名の準司書の大量養成となり、実にlibrarianのmass productionの時代に突入した状態です。

以上の正規課程のほかに、現職の図書館員と司書職希望者を対象に「韓国司書教育院（1年）」

表3 延世大学校初期図書館学科の教科課程

学 年	専 攻 科 目	毎 週 時 間		年間学点
		1 学期	2 学期	
1	初級漢文	3	3	6
	文学概論	3	3	6
	社会科学	3		3
	国 語	3		3
	保 健	2		2
	英 語		3	3
	独 語		3	3
2	初級日本図書	3		6
	韓国典籍解題	3		3
	図書館学原論	3		3
	東洋典籍解題		3	3
	美術鑑賞		2	2
	基督教概論	3		3
3	分類と目録 (I・II)	3	3	6
	図書館の組織・管理	3		3
	英書講読		3	3
3 ・ 4	図書・印刷史	3		3
	古書及び特殊資料 (I・II)	3	3	6
	高級日本図書 (I・II)	3	3	6
	日書特講 (I)	3		3
	社会科学書誌	3		3
	漢書講読 (I・II)	3	3	6
	大学図書館奉仕	3		3
	英書講読 (I)	3		3
	英書特講 (I)	3		3
	分類編目特講		3	3
	人文科学書誌		3	3
	自然科学書誌		3	3
	図書館奉仕の特殊問題		2	2
	学校図書館奉仕		3	3
	公共図書館奉仕		3	3
	非冊子資料		3	3
	司書実習		1	1
	日書特講 (II)		3	3
	英書特講 (II)		3	3
	保 健		2	2
全校生	図書と図書館利用法	3	3	6

と国立中央図書館で毎年実施している「司書講習課程（50時間）」があります。その他、各大都市の教育委員会が主催する初・中・高校教師のための「司書教師講習会」が学校の休みを利用して実施されています。

今日、韓国の図書館界と図書館学界は、様々な課題を抱えて深刻な陣痛状態にあります。司書の供給が需要を大幅に上回るという現実の中で、即席に量産された司書が司書職の質的低下を招来する可能性が大きいことは否定できない事実です。図書館学科の増設が、過去10年間で220%増加したのに比べて、図書館の増加は47%にすぎず、図書館職員数は19.7%の増加にすぎない状態です。館種別図書館数及び職員数は表5のようになっています。司書の需要と供給の均衡の問題は、今、われわれの大きな課題なのです。

表5 韓国の館種別図書館の全体職員数（1984年4月現在）

館種 館員	国立図書館	国会図書館	公共図書館	学校図書館	大学図書館	特殊図書館
正 司 書	30	33	184	} 1,303	675	155
準 司 書	42	27	410		708	79
其他職員	77	175	1,227	1,783	1,074	556
職員総数	149	235	1,821	3,086	2,457	790

4 図書館学教育の教育課程と内容分析

韓国の図書館学の歴史は、前にも言及した通り、わずか28年にすぎない短い間ですが、その間、各大学・大学院・短期研修コースなどで有能な司書が輩出されました。しかし、図書館学の研究対象である図書館の発展は、量的・質的（内容的）に、かなり不振な状態で両者の間の大きいギャップは、今後、様々な困難な問題をひき起すことが懸念されます。ここでは、大学の図書館学教育課程の構成を概観しながら、内容について述べてみたいと思います。

表6は8大学図書館学科の教育課程です。ただし、ここでは、29の4年制大学の中の26大学の教育内容・教授及び学習方法は省略しましたが、図書館学科の教育課程を分析考察した結果を要約して紹介します。

- 1 各大学別の開設科目数は、大体24～30科目になります。
- 2 開設科目の領域は次の7領域に区分されます。

表6 4年制大学図書館学科教科課程 — ソウル所在

延世大学校		梨花女子大学校		中央大学校		成均館大学	
科目名	区分	科目名	区分	科目名	区分	科目名	区分
図書館学概論	必	図書館学序説	必	図書館学概論	必	図書館学概論	
情報学概論	必	社会と図書館	必	参考文献調査論	必	情報学概論	
参考業務	必	参考奉仕	必	文献選択論	必	資料選択論	
資料選択構成論	必	図書及び印刷・図書館史	必	人文科学文献論		書誌学概論	
分類法	必			読書指導論		韓国書誌	
目録法	必	人文科学文献		韓・中典籍		図書館経営論	
参考情報資料	選	主題別書誌		科学技術文献論		資料組織法(I)	
日書講読(初・I・II)		韓国典籍		書誌学概論	必	古典資料講読	
図書館経営学	必	中国典籍		文献分類法	必	英書講読(I)	
大学図書館経営		自然科学文献		編目法	必	英書講読(II)	
図書及び印刷史	必	政府刊行物		資料組織練習		日本資料(I)	
非冊子資料		書誌学	必	古書編目法		日本資料(II)	
コンピューター情報		児童及び青少年資料	必	資料組織論	必	人文科学書誌	
処理法		資料組織法	必	情論管理論	必	学校図書館経営	
図書館自動化		非図書資料		特殊資料運営論		人文科学系	
図書館情報処理練習		資料組織法練習		教育情報運営論		社会科学系	
英書講読(I・II)		古書整理法		情報産業論		自然科学系	
漢書講読(I・II)		図書館組織管理	必	日書講読(I)		資料組織法(II)	
日書講読(高・I・II)		大学図書館運営論		日書講読(II)		参考資料調査法	
卒業論文		特殊図書館運営論		英書講読(I)		大学図書館運営	
特殊図書館経営		公共図書館運営論		英書講読(II)		資料組織法演習	
目録分類法練習		学校図書館運営論		漢籍選読(I)		公共図書館運営	
古書整理法		図書館文献選読	必	漢籍選読(II)		非図書資料組織	
科学技術索引抄録		ドキュメンテーション	必	情報システム管理論		日本資料特講	
演習		図書館実習		情報検索論	必	古典資料組織法	
読書指導論						情報検索論	
図書館史	必					図書館機械化論	
韓国書誌学						図書館史	
中国書誌学						中国書誌	
情報検索理論	必					図書館研究法	
図書館実務英語						社会科学書誌	
漢書特講						特殊図書館運営	
学校図書館経営						自然科学書誌	
図書館奉仕の特殊問題							
						専攻必須: 30学	
						専攻選択: 27学	

※ 4年制大学の卒業に必要な学点は共通140学点。

4 大学，地方所在4大学 — ※ 各科目当りの学点単位は大体 3 時間 3 学点

校		慶北大学校		淑明女子大学校		暁星女子大学校		釜山産業大学校	
	区分	科目名	区分	科目名	区分	科目名	区分	科目名	区分
論 法 論	必	図書館経営総論	必	情報図書館学概論	必	図書館学概論	必	図書館学概論	必
	必	資料 分類法	必	情報と社会	必	図書館と社会		読書指導論	必
	必	資料 目録法	必	分類学	必	図書館史	必	分類法	必
	必	韓国古典資料演習	必	目録学	必	参考業務	必	書誌学概論	必
	必	日本資料演習(I)	必	参考情報業務論	必	資料選択論	必	目録法	必
	必	打字実習		参考情報資料論	必	主題別書誌(I・II)		図書館経営論	必
	必	図書及び図書館史		図書館経営学	必	政府刊行物		図書館史	
		読書指導論		情報資料選択論	必	書誌学		英書講読(I)	
		図書館経営各論(I)		図書館自動化論	必	連続刊行物		日書講読(I)	
		書誌学概論	必	情報検索論	必	読書指導論		漢書講読	
		資料選択論	必	英書講読(I)		分類法	必	参考奉仕論	必
		視聴覚資料	必	英書講読(II)		目録法(I)	必	情報学原論	必
		図書館経営各論(II)		図書館史		目録法(II)	必	資料選択論	必
		日本資料演習(II)		日書講読(I)		図書館組織管理論	必	韓国書誌	
	系教	資料組織演習		日書講読(II)		館種別図書館(I)		日書講読(I)	
	"	コンピューター入門		人文社会科学情報		館種別図書館(II)		英書講読(II)	
	"	日本資料演習(III)		科学技術情報		図書館学特講(I)		非図書資料	
	必	定期刊行物		分類目録学演習		図書館学特講(II)		主題別書誌	
	必	情報奉仕論	必	公共及びメディアセンター経営学		日本資料		図書館自動化論	
		司書実習	必	非冊字資料論		原書講読	必	古書整理論	
論 法 論		情報検索	必	司書実習		情報学概論	必	情報検索論	必
		主題別情報資料(I)		コミュニケーション論		図書館自動化	必	卒業論文	必
		図書館調査統計論		古書整理論		索引及び情報検索		図書館実習	必
		図書館自動化論		情報システム分析論		司書実習	必	分類目録演習	
		主題別情報資料(II)		読書指導論		非図書資料		図書館経営各論(I)	
		図書館学特講		大学及び専門図書館経営学				図書館経営各論(II)	
	必	索引及び抄録法						中国書誌	
点 点以上		専攻必須：29学点 専攻選択：21学点以上						専攻必須：30学点 専攻選択：27学点以上	

- 1) 専攻基礎及び入門課程
 - 2) 歴史的・研究課程
 - 3) 資料及び資料選択研究課程
 - 4) 資料組織（情報処理）研究課程
 - 5) 利用及び資料奉仕研究課程
 - 6) 図書館（情報管理機関）行政・管理研究課程
 - 7) その他（外国語と実習など）
- 3 このように7領域に含まれた教科名を同意語及び類似同意語別に分類すると39科目に区分されます。
- 4 専攻科目中、必須対選択科目の比率は35:65です。
- 5 図書館学科対情報学関係科目の比率は86:46で、情報学関係科目は全体の $\frac{1}{6}$ 程度です。
- 6 情報学科目は必須科目の中では、11%で、選択科目では16%を占めています。
- 7 大学別に多少の差はありますが、取得単位数は専攻必須が29～40単位、専攻選択は21～30単位、その他教養科目と一般選択を入れて140単位以上を取得することになっています。
- 8 大部分の大学で、情報学概論、情報検索論、図書館の自動化などを講義していますが、情報関係科目が全科目の20%を超える大学は、いまのところありません。

以上のように教科目を外形的に簡略分析してみると、情報学関係の教育が貧弱な状態で、これからの情報化社会に能動的に対処していくためには、この分野に対する関心と努力が必要だと思われます。

5 結 論

韓国の図書館の発生が開発途上国の中でも遅れているのは、図書館の需要性と必要性に対する政策を立案者（決定者）の認識の不足に起因していると思われます。22年の長い間、修正・補完されない図書館法の改定、公共図書館の増設、司書の待遇改善など緊急に改善されるべき問題が山積されています。

韓国の全大学の約30%の学部・学科に図書館学科があり、2年制の専門大学では8%、その他短期課程など様々な教育機関から毎年約1,600人の司書が養成されています。しかし、その就職率は、かなり低いのが現状です。韓国大学卒業生の就職率は、1984年48.3%、1985年40.9%で、前年度と比べると7.4%低くなっています。司書の就職率は約30%程度と推定されています。このように現実を無視した図書館学科の無計画な増加は、司書の質を低下させるだけでなく、司書職に対する認識と待遇改善にも大きな阻害要因となっています。

今日の韓国の図書館学の教育課程はその教育方法・内容を含めて20年前と比べて余り変化し

ていませんが、1970年代から情報学関係の教科目を取り入れられ、少数の進歩的大学では情報学関係科目の講義を始めています。こうした教育課程の変更は、各大学の教授陣の学問的背景と傾向により変わる傾向が多く、欧米で留学経験をもつ教授がいる大学では、情報学関係科目の数が増加していることで分ります。

韓国の図書館学教育は、各大学ごとに独自の多様で、それぞれ特色を持っています。図書館学と情報学の教科目比率をどの程度に調整するかについての論議は、見解がわかれ、現在、韓国図書館学会で研究・検討中です。

しかし、韓国の社会状況と図書館の実態からみると、情報学関係教育に重点をおいても、実際にはそれを必要とする現場がないことです。図書館業務の機械化、自動化、コンピュータ情報処理施設などが設置されている図書館は殆んどありませんから、情報学関係科目の増設に対する反対論と懐疑的立場の人がかなりいます。一例として、1983年韓国図書館学会で、「図書館学科名称改定」討論を経て、投票の結果、図書館・情報学科又は文献情報学科などの学科名は否決され、結局従来の図書館学科をそのまま使用することになりました。しかし、全南大学校は、今年から、文教部の承認を得て文献情報学科と改称しました。

今日の第7分科会のテーマが、「プロのライブラリアンに何を期待するか」に対して、私見を簡単に述べたいと思います。

プロのライブラリアンは図書館人として、強い目的意識と使命感をもって、自己犠牲的奉仕精神を発揮すると利用者から愛され、認められる専門職業人になると思います。利用者が親切で有益なサービスを司書から受けることにより、心から感謝し、図書館利用に対する満足感とよい経験が利用者の内面に蓄積され、司書を人間的に教養と知的能力を備えた専門職として認める時、はじめてプロとしての使命と役割を果たしたといえると思います。

これまで拙ない私の発表を傾聴して下さった皆さんと、又この機会を与えて下さった日本図書館協会関係の皆さんに、心からなる感謝の言葉を申し上げます。

最後に、日本図書館協会の限りない発展と、両国間の図書館関係のより親密な理解と積極的な協力関係を期待しながら、終らせて頂きます。有難うございました。

Ⅲ. 中華民国（台湾）におけるプロのライブラリアンの養成

林 孟 真

（国立台湾師範大学教授）

東アジア文化圏にあって、類似の文化、社会環境で、また同じ東洋人の思想で「プロのライブラリアンに何を期待するか」というテーマの下に多少は同じ論点があると考え、日・華共同意識と見解で、両国の優秀なライブラリアンを養成する理想的な図書館教育システムを作り上げなければならないとの重大な責任感を感じつつ、図書館教育従事者の立場から発表することとした。

1 台湾におけるライブラリアンの活動の現状と今後のあるべき姿

一般に、台湾のライブラリアンの評価は、日本と比較して低い。しかし、その中で大学図書館のライブラリアンの評価は、他の図書館に比べて社会的に高いものである。その理由として、大学の図書館システムが改善されてきたこと、大学の教員がライブラリアンをよく理解していることがあげられる。

公共図書館に対する一般社会の評価は低い。これは公共図書館が教育行政システムの一環とみなされており、ライブラリアンは教育行政を勉強した人で充分であり、ライブラリアンとしての専門教育はいらないという考え方が存在するからである。従って、公共図書館の運営もうまくいっていない。

専門図書館も同じく、あまり重視されていない。一般企業においては、一般の職員が定年前に専門図書館の仕事につくというように、あまり能力のない人物がライブラリアンになっているという現状である。

学校図書館に関しては、教育行政のサポートをしている国立師範大学が、学校図書館のシステムを作成し、ライブラリアンの訓練を行っている。その功績により、いくつかの小学校図書館は、世界レベルにまで達しているが、その普及率は充分ではない。

現在の台湾の図書館の一般人事システムは、あまりうまく行われていない。また、ライブラリアンの給料が安いこと、図書館の仕事自体が理解されていないことなどからも、図書館で働くライブラリアンの地位はあまり高く評価されていない。従って、ライブラリアン自身も、あまり使命感をもっていない。

現在の台湾の図書館は、行政側の援助、理解が充分ではない。しかし、大学卒業後、ずっと図書館で仕事をしてきた人は、使命感をもち、図書館の発展を常に願っている。

台湾では下記4大学、1専科学校に図書館学科が開講されている。

国立台湾大学図書館学 ・ 研究所

国立台湾師範大学社会教育学 ・ 研究所

私立輔仁大学図書館学系

私立世界新聞専科学校図書館資料科

上記4大学の卒業生は、さまざまな分野で活躍している。国立台湾大学の卒業生は、その80%がさらに外国に留学し、アメリカの図書館で仕事をする者も多い。国立師範大学の卒業生は高等学校の教師になる者が多い。夜間部の卒業生は、小学校の教師となり図書館の仕事も行っている。輔仁、淡江の私立大学の卒業生は、主に各県の施設や文化センターで仕事をしている。以上、4つの大学の卒業生は、異った形態の図書館にうまく割り当てられ、活躍している。

このような台湾のライブラリアンの活動の現況からみて、今後の台湾でのライブラリアンのあるべき姿をまとめると、図書館・情報学の専門知識を基盤として、次のような専門的職業意識をもった人が望ましい。

- 1 使命感と職業意識の高い人
- 2 ユーザーニーズをよく観察できる人
- 3 実証的な分析力と迅速な組織力がある人
- 4 親切的な態度で話が上手な人
- 5 発想が良く、創造力がある人
- 6 まじめで世話好きな人
- 7 勤が良い人

2 台湾における図書館員教育の分析

前述の4大学図書館学科のカリキュラムの分析から、現在、まだ図書館学教育の目的やコア(core)は、はっきりしていないと思われる。

一般大学において学部を卒業するには128単位以上の修得が要求される。図書館・情報学教育の専科大学である4大学では、必須科目として50単位をあてている。副専攻の要求は最低20単位で、10～15の選択科目(図書館・情報学の科目)を含む。

台湾の図書館・情報学教育では、実習を重視しており、またライブラリアンの再教育を講習会などの形で行っている。毎年、夏休みには、図書館学校の学生をアルバイトとして各地の図書館で受け入れている。

3 台湾と日本における図書館学教育の差異

ユーザーに良いサービスを提供できる優秀なライブラリアンの養成は、図書館学教育の根本

的考え方である。この立場に立って、台湾と日本における図書館・情報学教育の差異を取り上げ、両国の長所と短所を卒直に提示してみたい。それに両国でもっと強固に確立された図書館・情報学教育システムが作成されることが期待される。

◎台湾図書館学教育にみられる11の特徴

1 司書教育の集中化

司書課程は4大学と1専科学校に集中し、4年コースで養成され、一般大学には司書課程を設置しない。最低128単位の取得で司書資格が認定される。

2 「図書館利用教育」は各大学とも重視している。

5つの図書館学科では「図書館利用教育」を一般選択科目として、全校に開放している。その他の大学でも「研究方法」「図書館利用指導」などの科目により、図書館利用教育を重視、4大学の教師が指導する。

3 実務実習を十分重視している。

4 副専攻 — 主題専門分野の知識ベースの勉強を要求する128単位の中には、図書館学の単位以外に主題専門学科の単位と一般教養の単位も含む。

5 ライブラリアンの資格認定は2通りである。

イ 自然認定：図書館学士を認定されれば図書館員の資格が与えられる。

(大学図書館と専門図書館)

ロ 文官試験：国家公務員試験で図書館行政域では、教育行政合格者が図書館員の資格を与えられる。(公共図書館と政府機関の専門図書館)

6 図書館学教育者は必ず修士学位以上の取得者であるべきである。

7 図書館学教育者はほとんど図書館現場の管理職である。理論研究と実務経験を同等に重視し、学生の実習にも効果をあげる。

8 大学図書館長は、ほとんど図書館学を専攻した人である。

9 図書館教育担当者の再教育は制度化している。教育部と国家科学発展委員会により制度化している。

10 図書館職員の再教育制度は教育部側から制度化している。

11 図書館教育には幾つかの問題点がある。

イ 図書館員の社会的地位が低くあまり重視されていない。

ロ 台湾における各主題研究分野の中では図書館学は「人気のない分野」である。

ハ 図書館学科の学生の学習意欲にも若干問題がある。

その原因として、次のことが指摘される。

a カリキュラムの深さが足りない。

- b 図書館学教育者の質が他の学科分野より低い。
- c 工学（コンピュータ、情報学）分野の科目が少ない。
- d 就職先が少ない，給料が安い。

英国の人文学者パティソン（M. Pattison）が「經典の学問だけでは完全な教育を受けたとは言えない。現在では科学技術の応用分野を活用せずにどうして完全な教育を受けたとはいえるのか。」と指摘している。この指摘に従えば，ユーザーが図書館で完全なサービスを受けることができるためには，図書館学教育者は如何にしてその完全なサービスを実施するライブラリアンを養成するかを考えることが大事である。これが図書館・情報学教育の根本であり，この根本を実現する方途を見つけ出すことが重要であろう。

（注：これは当日発表の記録と後日提出下さった原稿をもとにまとめたものです。文責・古賀）